# 豊友

第173号
http://bussei.gr.jp/

Buzanbussei
Buyu

題字　浅井侃雄　猊下

## 今後の予定

**写仏講座**
令和四年　九月九日(金)
十三時開始　十四時三十分終了予定

※以後の開催予定日につきましては、随時豊山仏青Ｗｅｂサイト・Ｆａｃｅｂｏｏｋにて告知いたします。

**全青連結集―大覚寺大会**
令和四年　十月七日(金)

## 編集後記

この度広報次長を拝命致しました、木村修廣と申します。以前より取材などのお手伝いをさせていただいていたご縁から、先代広報次長の北林事務局長より任を引き継ぐ運びとなりました。

コロナ禍が訪れて三年目…。思うような活動ができない日々が今もなお続いておりますが、木村会長のもとで努力と試行錯誤を重ねながら、広報次長として二年間の任期を精一杯務める所存です。何とぞよろしくお願い申し上げます。

さて、広報次長の責務は、〝豊山派仏教青年会の多岐にわたる活動を、より多くの方々に知っていただくこと〟であると私は考えております。その為にはＷｅｂサイトやＦａｃｅｂｏｏｋといった電子媒体による情報発信もさることながら、紙媒体のメディアである『豊友』の製作も欠かすことができません。

発刊した『豊友』の記事は、いずれ一部抜粋したものを豊山仏青Ｗｅｂサイトで閲覧することができます。とはいえ、「後々Ｗｅｂ上で閲覧できるから」と本書を処分することなく、数年経った後で手に取って読みながら、「このような活動をしていた時代もあったな」と懐かしんで頂けましたら幸いです。

最後になりましたが、快くインタビューに応じて下さった木下榮弘先生に、改めて心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

広報次長　木村修廣

**豊山仏青Webサイト**

写仏講座・千響チャリティー演奏は

豊山仏青　検索

**Facebook**

www.facebook.com/buzanbussei/

**豊友お問い合わせ先**

webussei@gmail.com

**豊友　第173号**

令和4年6月23日発行

発行人　木村　修明

発行所　〒112-0012　東京都文京区大塚5丁目40番8号
真言宗豊山派宗務総合庁舎内　真言宗豊山派仏教青年会

デザイン・印刷　株式会社 ディー・エイ・ティ・コーポレーション

# 第三十四代会長就任挨拶

真言宗豊山派仏教青年会
第三十四代会長
東京二号　観音寺
木村 修明

この度、会長選考委員会にて選出賜り、真言宗豊山派仏教青年会第三十四代会長を謹んでお受けする運びとなりました。

私が豊山仏青に初めて関わったのは、第二十八代髙橋將雄執行部にて、会計次長に任命された時でした。当時の髙橋会長はいまの私の年齢よりも若く、四十歳手前でのご就任でしたが、「ＴＨＥ会長」と言った立ち振る舞いで、持ち前の強烈なリーダーシップを発揮され、東日本大震災という未曾有の大災害にも、冷静に且つ的確に対処されており、たくさんのことを学ばせて頂きました。

続く花園昌道執行部では、若輩ながら事務局長に就任致しました。花園会長は「悩むくらいなら先ず動く」をモットーに、仏青らしい機動力で次々と事業を行いました。中でも、髙橋会長から引き継いだ東北復興支援では、「現地が求める支援」に注力し、被災地に寄り添った支援を行いました。そして、その活動は東京国際フォーラムにて開催されたチャリティーコンサート「復幸」に結実致しました。花園会長の元では、未熟な事務局長の至らぬ点や粒度の粗い仕事にも仏の心でお許し頂き、様々な経験を積ませて頂きました。

花園執行部後の豊山仏青は、根本聖道会長、木村真弘会長、林映寿会長、鈴木真人会長と続き、各会長がそれぞれの強みを活かした仏青活動を行い、数々の財産を残してくださいました。とりわけ、直近の鈴木会長に於いては、就任直後に政府から緊急事態宣言が発出されるなど、難しい舵取りを強いられていたなか、初めての試みとなるオンライン開催での全青連結集を、富田道興実行委員長と共に大成功に導き、豊山仏青理事会もＺＯＯＭを用いてつつがなく行うなど、コロナ禍に即座に対応し、豊山仏青に於けるオンラインのインフラを整えて頂きました。これは、長い豊山仏青の歴史のなかでも大きな資産になったことと感じております。

こうして紡がれて来た伝統ある豊山仏青の会長をお引き受けするに当たり、甚だ未熟な私で良いものか逡巡も致しましたが、現在の私を構成する過程で、たくさんの経験を与えてくれた豊山仏青に、少しでも恩返しができたらとの想いでお返事をさせて頂きました。そして、私にお寄せ頂いた期待に背くことなく、不撓不屈の精神で豊山仏青の発展の一助となるべく邁進する所存です。

私は、強みと言っていいかは分かりませんが、有難いことに「人」に大変恵まれています。常日頃からご指導ご鞭撻を下さる先輩方、慕って集まってくれる後輩達、修行を共にした同期の仲間や、豊山以外の友人達。仏教界以外にもたくさんの「人」の縁に恵まれ、私の助けとなってくれています。

そして、第三十四代執行部にも、次ページに紹介されている通り、北林事務局長を始めとして、副会長、各次長、監事の方に至るまで、非常に優秀で経験豊富、才能溢れるメンバーが集結してくれました。私一人では何も成し遂げられませんが、この素晴らしいチームと共に、全国の会長・理事の方々と、より一層連携して、豊山仏青会員諸師に資する仏青活動を進めて参りたいと思います。折しも、急速に進む人口減少や、若年層の仏教離れ、コロナが加速させた宗教儀礼の簡素化など、我々僧侶や寺院を取り巻く環境は、決して明るいものではありません。その様な環境下での寺院運営に於いて、新たな試みを始める為の気付きやヒントを出来る限り多く発信して行くことが出来ればと考えております。

また、近年の日本は災害大国とも呼ばれるほどに、甚大な被害を及ぼし、激甚災害にも指定される様な災害が頻発しております。全国ネットワークを駆使した災害救援活動も豊山仏青の根幹事業で有りますため、引き続き災害救援基金の執行や、林会長率いる笑顔プロジェクトとの協定を用いて、有事の際の被災地復興支援も行なって参りたいと思います。

全国の諸大徳各位に於かれましては、引き続きましてのご指導ご鞭撻と共に、より一層のご理解ご協力のほどをお願い申し上げます。

# 第三十四代執行部就任挨拶

**副会長**　北海道　鹿追寺　**関　道俊**

社会情勢や生活様式が目まぐるしく変化し、さらには国際情勢も大きく変化している状況です。私の住まう北海道のような地方にも影響しており、私たち青年僧の役割も大きな変化を求められていると考えます。

お大師様の「済世利人」の精神もこの青年会における二つの役割であり、伝統ある豊山仏青諸先輩の名に恥じぬよう精進して参りたいと思います。副会長という責務を皆さまのご協力をいただきながら、二年間務めさせていただきますので何卒よろしくお願い申し上げます。

**副会長**　埼玉二号　東光院　**白井 宥成**

木村会長とは第二十九代花園執行部時代に木村事務局長、事業次長として共に活動して参りました。パイタリティ溢れる行動力、事務局員の皆様を纏める人間力に、後輩ながら尊敬の念がたえません。この度副会長を拝命し、また一緒に活動をする事となり、喜びと共に一層気を引き締める次第です。

仏青活動は全国会員の皆様のご協力がなければ成り立ちません。これからも変わらぬご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

**副会長**　東京六号　三光院　**門屋 昭譽**

引き続き、コロナ禍により活動が制限されることが予想されます。しかしながら、そのような中であっても木村会長をお支えし、自分たちにできる活動は何かを考え前に向かって行動していく所存です。

また、これまで培った知識や経験を豊山仏青の活動に活かせるよう全身全霊務めて参ります。

二年間何卒よろしくお願い申し上げます。

**副会長**　高知　善楽寺　**島田 希保**

新型コロナウイルスにより社会が大きく変わり、三年が経ちました。いまだ猛威をふるう状況は変わりありませんが、コロナと共にいきる生き方を少しずつ見いだしてきたところではないでしょうか。

来年の令和五年、弘法大師御生誕一千二百五十年の記念の年を迎えます。この節目の年に向かい、皆さまのお力をお借りしながら、明るさと希望を届ける仏教青年会のお力添えができるよう微力ながら精進してまいります。何とぞよろしくお願い申し上げます。

**事務局長**　東京五号　光德院　**北林 隆佳**

鈴木前会長のご尽力により、ニューノーマルに適応的な運営も随分と定着した感のある豊山仏青となりました。引き続き伝統を大切にしつつも、良いものは取り入れ無駄は省きながら、より効果的かつ持続可能な仏青活動を提示できるよう、尽力してまいりたいと思っておりますので、会員各位のご指導ご協力何卒よろしくお願い申し上げます。

**総務次長**　東京二号　華蔵院　**木下 栄海**

この度木村修明新会長のもと、総務次長の役職を拝命いたしました。

長年豊山仏青にお邪魔させて頂いた経験を活かしてこの執行部を支え、コロナ禍という状況ではありますが、できる限りの活動を発信して、豊山仏青の繁栄の一助になるよう励んで行く所存です。

二年間という短くも長い期間ではありますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

**会計次長**　東京一号　安養院　**平井 俊和**

昨年の全真言宗連盟結集・東京大会に携わり、青年僧が団結し新しいことにチャレンジしていく中で多くのことを学ばせていただきました。

この度は会計次長を仰せつかりました。収入、支出の厳格な入出金管理を心がけ、木村執行部の一助となれるよう努めてまいります。

二年間よろしくお願い申し上げます。

**事業次長**　東京三号　東光寺　**若井 義邦**

新型コロナウイルス感染拡大によりさまざまな制限が施されていた中、まだまだ油断はできませんが、ようやく日常が戻りつつあります。近年延期・中止されていた活動の再開の為、そして今後の豊山仏青の発展の為に少しでもお力になれるよう、木村会長の下、努めさせていただく所存でございます。

何とぞよろしくお願い申し上げます。

**広報次長**　東京五号　慈眼寺　**木村 修廣**

以前より取材などのお手伝いをさせていただいていたご縁から、広報次長の責務を負う運びとなりました。

〝豊山派仏教青年会の活動を多くの方々に知っていただくこと〟を目標とし、豊山派仏教青年会のＷｅｂサイトやＦａｃｅｂｏｏｋの更新、そして今皆様にお読み頂いている『豊友』誌面の編集・取材など、様々な広報活動に邁進する所存です。

二年間、何とぞよろしくお願い申し上げます。

**監　事**　茨城六号　東福寺　**渡辺 隆正**

**監　事**　群馬東部　観音院　**月門 英真**

全真言宗青年連盟

## 副理事長就任挨拶

全真言宗青年連盟　副理事長
東京五号　宝仙寺
**富田 道興**

令和四年度を迎えるにあたり、全真言宗青年連盟は鈴木宏章新理事長（御室派）の元で、新しい執行部が発足致しました。

全真言宗青年連盟は、十五の真言宗各派青年会が加盟している連合団体です。

昭和五十五年に結成されて以来、北大路欣也さん主演の映画『空海』や、本年は大覚寺で、そして来年は善通寺にて開催が決まっております結集大会など、宗派の垣根を越えて真言宗そして宗祖弘法大師の教義を内外に広める活動を致しております。

全真言宗青年連盟は、他会派の青年僧と親睦を深め、また共に研鑽しあえる大変貴重な場であります。

二年の任期中は、連盟の活動を通じて、少しでも豊山派仏教青年会の為になるよう、微力ながら職務を務めてまいります。

なお、今回豊山派より出向するメンバーは横田弘明師（災害救援事務局長　福島一号）と東野一丸師（事務局員　東京四号）です。

豊山派仏教青年会会員の皆様には任期中、ご協力を賜る事が多々あるかと思われますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

豊山太鼓「千響」

## 委員長就任挨拶

豊山太鼓「千響」　委員長
埼玉二号　来福寺
**尾上 浩盛**

この度、白井宥成委員長より豊山太鼓「千響」第五代目委員長を拝命致しました、埼玉二号仏青所属の尾上浩盛と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

「千響」発足から十年が経ち、豊山太鼓千響創立十周年記念コンサート「千響～いのちの花」が無事に終わり、早くも二年が過ぎました。この二年間はご存じの通り、新型コロナウイルスの影響によりコンサートだけでなく講習会を開くことができず、豊山仏青のｗｅｂサイトに「般若心経」の解説動画をあげるなどの活動にとどまりした。

今後、新型コロナウイルス終息を願うと共に、これまで同様に復興支援活動や各種コンサートへの参加、また初心者講習会を開くなど検討しております。ご興味のある方はどうぞ気兼ねなくお越しください。

これからも日々研鑽を積みつつ、新たな十年を見据えて邁進してまいりますので、変わらぬご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

## 豊山仏青 写仏講座講師：木下榮弘先生 インタビュー

訊き手：広報次長 木村修廣

筆と墨を用いて様々な仏さまのお姿を写し描く「写仏」。豊山仏青では、そんな写仏の講座を宗務庁舎にて定期的に開催しております。しばらくの間コロナ禍の影響により活動を休止しておりましたが、今年の1月より再開する運びとなりました。これを機に、長年講師をお務めされている木下榮弘先生より、講座の歴史・写仏の魅力・写仏にまつわる印象的なエピソードなど、様々な写仏への思いにまつわるお話を頂戴いたしました。

木下 榮弘（きのした えいこう）
昭和29年生まれ。東京2号 華蔵院住職。「お寺はみんなで楽しむところ」をモットーとし、華蔵院においても写仏講座やヨガ講座などを開催中。

### 写仏講座の歴史と、写仏との関わり

昭和54年、豊山派の諸大徳を講師にお迎えし、仏青会員を対象にした「密教入門講座」が開講されていました。それに加え、身近な行事などをテーマにした「教養講座」を開催していたときに、たまたま全国青少年教化協議会の方から写仏の存在を教えて頂きました。事業次長として講座に関わっていた私は、これを機に写仏と出会ったのです。

それから、イラストレーターの難波敦郎先生を講師にお迎えし、「写仏入門講座」（後に「写仏講座」と改題）を実施しました。すると参加者の方々から非常に良い反響を頂いたため、翌年の昭和55年から定期開催する運びとなったわけです。この講座は僧侶・一般の方々を問わず広く案内を出していたのですが、結果的に一般の参加者が多くなりました。

弘法大師御入定1150年御遠忌を迎えた昭和59年に、総本山長谷寺に写仏を納める旅行会を写仏講座参加者と行いました。当時はまだ「写仏」という言葉・活動がそれほど広まっていませんでしたが、この御遠忌の大規模な活動をきっかけにして各地で普及し始めたと思います。また、一般の方に向けた写仏講座を大々的に企画したのは、恐らく豊山仏青が初めてだったのではないでしょうか。

難波先生がお亡くなりになったのち、平成の初めより今日に至るまで、私が講師を務めることになりました。写仏は、仏さまを描くことですから、我々僧侶が指導し、曼荼羅の中を細かく伝えることも大切だと思っています。振り返ってみると、人生の半分以上は写仏と関わっていますね。

### 写仏の特徴

私は写仏を「身近にある仏画」と考えております。写仏は仏画の一種です。仏さまを描く以上は、教義に則って描くのが本来のあり方でしょう。そもそも、仏画は礼拝の対象となるよう描くべきだと私は考えています。一方で、写仏は拝むこともできますが、見て楽しむだけでも差し支えないものだとも感じていますね。今は多様性の時代です。眺めて楽しむ仏画が存在しても良いのではないでしょうか。

そして、写仏の場合は、細かい装飾の描写を省略することは可能ですが、仏さまの大切な特徴を示す線は決して外してはいけません。

例えばお不動さまのお姿を言い表す際、「剣と縄を持ち、炎を背負い、怖い顔をした仏さま」と述べられることがあります。しかし、同様の特徴を持つ仏さまは他にも大勢おります。頭の頂に白蓮華があればお不動さま。ここが大切なポイントです。また、観音さまと勢至さまは限りなく似たお姿をしていますが、観音さまには阿弥陀さまの化仏、勢至さまには瓶が、それぞれ宝冠にお祀りされています。

写仏を行っていれば、こうした仏さまの特徴をしっかりつかむ事ができます。外せないポイントを押さえてさえいれば、写仏は誰でも行うことができるのです。

## 写仏の魅力

「仏さまと会話ができる」ことが写仏の魅力だと、私は考えております。

もし正式に仏画の形式・書式にのっとるのであれば、特に真言宗としては、『覚禅鈔（かくぜんしょう）※』に記された通りに、正確に彩色などをしなくてはいけません。でも写仏であれは、そのとき感じたこと、思ったことを自由に表現することが可能です。例えば、「今日は気持ちが晴れているから、明るい雰囲気のお地蔵さまを描きたい」と考え、その通りに描いても良いわけです。

仮に同じ観音さまのお手本を用いて写仏をしても、晴れている日・雨の降る日・良いことがあったとき・寂しいことがあったとき…。その全てで、描いた観音さまの表情が変わってしまいます。

気分が落ち込んでいるときに描いていると、次第にその気持ちが消えるのを感じます。きっと仏さまが助けてくれているからだと思います。私はそれを「仏さまとの会話」と呼んでいます。描いた仏さまから直接声が聞こえてくるわけではありませんが、「何かが伝わってくる」と感じることはありますね。

同じことを感じてもらおう、とは考えておりません。その人その人で感じることは違いますから。私は何かを感じるきっかけを与えるだけにすぎません。

※『覚禅鈔』：覚禅（1143～?）によって選述された聖教。諸尊法・灌頂・図像など、東密の事相に関する事柄が百巻以上にわたって詳説されている。（参考：『密教大辞典』法藏館）

## 写仏を介した人々の交流

写仏講座を受講されている方同士には、横の繋がりがあります。その関係性は私が強制したわけではなく、皆さまの間に自然と芽生えたものです。写経会では、そういった繋がりは薄いように思えます。その感覚の違いは、写経を「行」だと捉えている方が多いのではないかと。写仏も一種の行ではありますが、「仏さまが自分で描けた」という嬉しさにより一体感が生まれ、それを共有して味わっている方が多いのではないでしょうか。

なお、写仏講座はコロナ禍の影響により2年ほど中止を余儀無くされ、ようやく令和4年の1月に再開することができました。だいぶ時間が空いてしまいましたが、受講者の皆さまの様子はコロナ禍以前と変わっていないようにお見受けしました。

コロナ禍により、多くのイベントが中止、あるいはリモートによる開催を余儀無くされています。その余波について、「もし世の中が元通りになっても、イベントに訪れる方は減ってしまうのではないか。リモートだけで完結してしまえることが沢山ある、と多くの人が気付いてしまったから。」と述べていたコメンテーターの方がおりました。写仏は講座に来なくても、道具と下絵さえあれば自宅で行うことが可能です。しかし、環境に触れることでしか得られない大切なことも、確かに存在すると思っています。写仏講座の実施も勿論ですが、この度発足した新執行部の元で、また写仏展覧会ができれば嬉しいですね。かつてご好評を頂いた総本山長谷寺における開眼法要・写仏の奉納も、コロナが収まった頃に開催できたら幸いです。



## 僧侶へ向けた写仏のすすめ

最後に、僧侶の方々に私から是非お伝えしたいことがあります。「生活の身近なところに仏さまがいらっしゃるのだから、1人でも多くの方々に写仏をして頂きたい」のです。

「仏さまの絵は、仏画師の方々が描くものだ」とお考えになっている僧侶の方もおられるかもしれません。ですが、せめて1回か2回は写仏を経験して、ご自身の手で仏さまをお描きしてほしいと思っております。特にご自坊の本尊さまを題材とすることで、仏さまへの理解を深め、細かな特徴を説明できるようになって頂きたいのです。やがてはお檀家さん向けの行事として、写仏講座を開催することもできます。もちろん得手不得手はありますので、一概には言えませんが。

興味をお持ちになられた方は、是非とも写仏講座へいらして下さい。心よりお待ちしております。

（令和4年5月16日 荒川区 華蔵院にて）

※インタビューは十分な感染対策をとりながら行いました。

## 写仏の普及について

先ほども述べました通り、1150年の御遠忌をきっかけとして、多くの方々に写仏が普及していきました。しかし、より幅広く普及している写経、すなわち文字を書き写す行為に対して、絵を描き写す行為である写仏にハードルの高さを感じ、敬遠されている方も多いのではないでしょうか。

私自身、初めて描く仏さまの場合に「描けるかな？」と不安に思う場合があります。こうした不安などの余計な考えは、描いているうちに次第に消えてくるものです。全体像を描き終わった後のクライマックス、眼に筆を入れた瞬間、邪念が消えるのを感じますね。そして、最終的に「自分でも描けた！」という達成感を味わうことができます。実際に体験して頂ければ、きっと多くの方にとっても素晴らしい経験が得られると思っています。

## 講師目線で見た、印象的な写仏体験

長年写仏に携わっていると、「その人の様々な性質が線に表れる」と感じることがあります。

例えば、温度計を作るお仕事をされている方がおりました。職業柄か、その方の描き方はとても丁寧で細かく、思わず正直に「私より上手く描かないで！」と言ってしまうほどでした。

また、私の息子が幼少期にクレヨンを用いて写仏をした事があり、凄く良い作品に仕上げていたので す。でも、彼はそれを上手く描こうと考えて描いたのではなく無意識で描いていました。凄い感性だな…と、私は思わず唸らされてしまいました。彼に限ったことではなく、子どもの感覚は大人の考えを遥かに超えているようですね。大人の絵は、余計な意識に囚われて型にはまってしまいがちですから。

このような不思議な経験もあります。とある方の絵を見た瞬間、「この人、身体の左側がどこか悪いのかな」と感じたことがありました。全体的には良く描けていたものの、仏さまの左側の線が弱いように思えたのです。何の気なしに私は話しました。「どこか調子が悪くありませんか？一度診てもらった方がいいですよ」と。何とその方も身体の不調を実感しており、後日病院へ検査に行った結果、左側の腎臓が悪いことが判明したそうです。この些細な変化は意識的に見ようとして見えたものではなく、たまたま私が感じたことに過ぎません。きっと、仏さまが私に教えてくれたのでしょうね。

長年写仏をやっていて良かったと思うのは、そうした体験を一歩先に味わえたことですね。ですから、なるべく僧侶の方には体験してほしいと願っております。

## 写仏講座　詳細

●場所
東京都文京区大塚5－40－8
真言宗豊山派宗務所　3F会議室
（東京メトロ有楽町線　護国寺駅下車　徒歩3分）

●受講料
1,000円（2回目以降）
初回のみテキスト・筆代を含め2,000円

●お問い合わせ
真言宗豊山派仏教青年会
事業次長　若井義邦（わかい ぎほう）
090－4015－6895

※例年通り、7月・8月の開講はございません。
※次回開催予定日は9月9日（金）となっております。
時間は13時開始・14時30分終了を予定しております。
※事前のお申し込みは不要です。
※随時、感染対策を行いながら開催しております。
詳細につきましては、豊山仏青Ｗｅｂサイトもしくは豊山仏青Ｆａｃｅｂｏｏｋをご覧ください。

●豊山仏青Ｗｅｂサイト　写仏案内
http://www.bussei.gr.jp/tracing

●豊山仏青Ｆａｃｅｂｏｏｋ
https://www.facebook.com/buzanbussei/